

第7回エルトゥールル号遭難事件犠牲者追悼記念式典 (2016年4月2日(土) 於：NGBB 植物園)

4月2日、当地建設業大手 TEKFEN 社を母体とするアリ・ニハット・ギョクユイト(ANG) 財団が運営するネザハット・ギョクユイト植物園(NGBB)内のエルトゥールル号記念区域において、今年で第7回目を迎えるエルトゥールル号遭難事件の犠牲者を追悼する記念式典が行われました。

今年は、エルトゥールル号遭難事件から126年目にあたり、式典の会場であるネザハット・ギョクユイト植物園が開園してから21年となりました。

今回の式典には、来賓として現在は国会議員となっているエクレディン・イフサンオール氏(前イスラム協力機構(OCI)総裁)、タトルオール海軍准将や植物園のための土地の貸し出しの際、多大な協力を行った道路総局の関係者などが出席しました。また、幅広い年齢層からなるたくさんのトルコ人や日本人の観客がエルトゥールル号事件のトルコ海軍殉職者への追悼の意を表すために、植物園内エルトゥールル区画に集まりました。

この式典は、例年、エルトゥールル号遭難事件の犠牲者を追悼するために、同庭園内に植樹された桜の花の開花時期に合わせ行われています。今年は暖冬の影響で開花が早まりましたが、いくつかの遅咲きの桜の花を見ることができました。

式典冒頭には、イスタンブール在住の日本人の方々により結成された箏グループ「君府・芙蓉の会」により日本やトルコの歌曲が演奏された後、トルコ海軍管弦楽団の演奏による日本とトルコ両国の国歌斉唱、アリ・ニハット・ギョクユイト ANG 財団会長及び江原総領事のスピーチが行われました。当初予定されていたトルコ海軍管弦楽団やトルコ人グループによるコンサートは、2日前にディヤルバクル県で起こったテロ事件の犠牲者に哀悼の意を表するため、中止となりました。



箏による日本とトルコの歌曲の演奏



来賓席の様子



開会の挨拶をするアリ・ニハット・ギョクユイト会長



挨拶をする江原総領事